

# 花の都しずおか

## ガーベラ

アレンジメントやブーケなどに多用されるガーベラは切り花として最もポピュラーな花の一つ。色、形、大きさのバリエーションはバラエティに富み、品種は500以上におよぶ。静岡県の生産量は全国1位。中でも温暖で日射量の多い浜松市は昭和20年代から栽培を始めた主産地で、年間の出荷量は約3000万本に達する。

現在、J.Aとびあ浜松で栽培されているガーベラの品種数は約150。オリジナル品種も多数あり、年間を通じて日本各地へ出荷している。生産者グ

ループを束ねる「J.Aとびあ浜松ガーベラ協議会」の会長・桔川日出男さんは「いつでも量や種類のニーズに応えられるのが浜松の強み。それが日本一たる理由です」と語る。

量と種類の安定供給を続けるため、同市の生産者は土壌改良を繰り返しながら、隔離栽培や養液土耕といった新しい栽培法にも積極的に取り組む。「日本一だからこそニーズがある。2位じゃダメなんです」と桔川さん。静岡県産のガーベラは生産者のためまぬ努力と情熱で大輪の花を咲かせている。

ケーキシリーズに属す「バイナツプルケーキ」。

お問い合わせ/J.Aとびあ浜松 花き営農センター 電話:053-439-8100



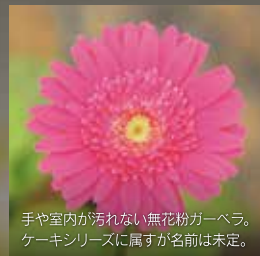
### 静岡の食 しずおか食セレクション

静岡県の国内外に誇りうる価値を備えた食材を、県独自の基準で認定した「しずおか食セレクション」。今号は11月から3月にかけて出荷される「メキヤベツ」を紹介する。

シチューなどの具材として人気の高いメキヤベツはキヤベツの変種。メキヤベツ特有の甘味は天ぷらや和え物にしてもおいしく、ビタミン類や食物繊維などの栄養価もキヤベツより高い。そんなメキヤベツの国内生産量においてJ.A遠州夢咲管内（県中遠地域の菊川市・掛川市・御前崎市）は全国一位だ。市場シェアは約6割にも達する。

ほとんど雪が降らず、「遠州のからっ風」による乾燥した気候を特徴とする菊川エリアはメキヤベツの栽培に適している。出荷は例年11月中旬から3月頃まで行われ、厳寒期の12月や1月に出回る

ものは甘味が増すという。大半は京浜、関西方面を中心に全国へ向けて出荷されている。県内流通量は限られているが、地元ではベーコン巻きや田楽にして食べる人も多く、育ち盛りの子どもが食べる家庭でも人気が高い。遠州の自然に育まれたメキヤベツは豊富な甘味と栄養価とともに、全国へ冬の到来を告げる風物詩となっている。



手や室内が汚れない無花粉ガーベラ。ケーキシリーズに属す名前はまだ未定。



桔川さんが栽培している八重咲きの「ジャピオ」。ハウス内は厳しく温度管理されている。



「フリーダムリス」を採花する桔川さん。ガーベラは1株が70本ほどの花を咲かせる。



毎年10〜20種類のガーベラを育てている桔川日出男さん。

## 遠州の小さな冬の恵み [菊川市] メキヤベツ



「全国一位なので自信を持っておすすめします」と語るJA遠州夢咲メキヤベツ委員会の委員長・森下兼雄さん。



メキヤベツは脇芽が結球したもの。直径2〜3cmの玉が1株に50〜60個実る。



中遠地域のメキヤベツは主に茶農家や水稲農家が冬季の品目として栽培している。

お問い合わせ/遠州夢咲農業協同組合 静岡県菊川市下平川6265 電話:0537-73-5550